

武蔵野プレイス視察報告



視察日：令和5年10月27日（金）
10：00～12：00

視察者：柏市立図書館協議会委員 5名
事務局職員 4名

武蔵野市概要

	武蔵野市	柏市
人口（R5.10月現在）	148,070人	435,202人
面積	10.98km ²	114.74km ²
一般会計予算（R5年度）	729億円	1,499億円

武蔵野市立図書館概要

	武蔵野中央図書館	吉祥寺図書館	武蔵野プレイス	計
アクセス	三鷹駅より徒歩15分	吉祥寺駅より徒歩3分	武蔵境駅より徒歩1分	
延床面積	7,548 m ²	1,655 m ²	9,809 m ²	
施設形態	単独施設	単独施設	複合施設	
建築年	1995年	1987年（2018年改修）	2011年	
運営形態	直営	指定管理者	指定管理者	
蔵書冊数	690,067	99,688	185,165	974,920
貸出冊数	731,005	446,069	915,699	2,092,773
登録者数	—	—	—	187,873

武蔵野プレイス概要

【名称】	武蔵野市立・ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス
【開館】	平成23年(2011年)7月
【面積】	9,809㎡ (地上4階, 地下3階)
【場所】	武蔵境駅南口下車徒歩 1 分
【開館時間】	9:30~22:00
【休館日】	水曜日 ※開館日数は年間307日
【運営主体】	公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団
【運営経費】	5億7千万円 ※令和4年度
【機能】	図書館, 市民活動支援, 青少年活動支援, 生涯学習支援
【来館者数】	1,440,450人/年 (4,692人/日) ※令和4年度
【経緯】	平成12年 新公共施設のアイディアコンペを実施 平成19年 kwhgアークテクトゥに実施設計を委託 平成23年 7月開館

武蔵野プレイスの理念

「武蔵野プレイス」は、図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざしています。

武蔵野プレイスは、人々の交流が自然に生み出される質の高い「場」を提供し続けることによって、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯学習、福祉、教育といった横断的な活動や交流のネットワークの活性化を促します。

多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間（場）は、地域社会の魅力を高めることに寄与します。

「場」＝「プレイス」ということばには、このような期待が込められています。

○「アクションの連鎖」が起こる施設をめざして

社会における価値観の多様化やインターネットに代表される情報化が急速に進む中、「何が正しくて何が正しくない」のか、私たちには自己の責任において、主体的に判断し行動することが求められています。地域社会においても、さまざまな地域の課題について個人や地域の力を集結し、課題解決を図ることができるような自立した地域社会の形成が不可欠です。

このような状況に対応するためには、人々が日常生活において、自主・自発的に読書や学習を継続できる機会や、身近で行われているさまざまな「市民活動」や「アクション」に気軽に触れることができる場が重要です。武蔵野プレイスは、この“気づき”から始まる「アクションの連鎖」が起こり得る「機会」と「場」を提供し、支援していくことをめざしています。

武蔵野プレイスホームページから抜粋

武蔵野プレイスの4つの機能

1 図書館機能

施設の基幹機能として他の機能との連携を図り、さまざまなライフステージに対応した**滞在型図書館**を目指す

2 生涯学習支援機能

市民相互の連携を促し、地域の教育機関、企業、施設と連携した、**柔軟な生涯学習事業**を実施する

3 市民活動支援機能

市民活動団体が互いの立場や考え方を尊重しながら交流する、**開かれたネットワークを支援**する

4 青少年支援機能

青少年の情報交流の場、市民活動、情報・文化活動、社会参加への**足がかり**をつくる

- 4つの機能を複合的に活用 → 『アクションの連鎖』 → 知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような**活動支援型**の公共施設を目指している。

視察時資料から抜粋

武蔵野プレイスの設計・運営の特長

1 複数の機能が集まるメリットを最大限生かす

- ・ 多様なニーズへの対応
- ・ 個々の機能を超えたこれまでにない新たな価値を持つ施設
- ・ 固定的なサービスを提供する従来型の公共施設の枠組みを超える

2 諸機能の並置から連携・融合へ

3 ブラウジング（回遊性）の重視

- ・ 年齢や目的も異なる利用者が、来館目的外の活動や情報に触れ、気づき・出会い・交流を生み出す
- ・ 建築の工夫
 - ①心地よい空間づくり⇒仕切りがなく、丸みを帯びたデザイン
 - ②空間の連続性 ⇒空間ブラウジング(シースルー, らせん階段)
 - ③さまざまな「居方」を可能にする

4 機能間の有機的連携を生むために、施設全体を一体的に管理・運営する

視察時資料から抜粋

館内構成



武蔵野プレイスホームページより引用⁷



らせん階段



4Fテラスデッキ



4Fワーキングデスク



2Fおはなしのへや



2F児童図書



3Fワークラウンジ



B1Fメインライブラリー



1Fマガジンラウンジ



1F総合案内

ティーンズスタジオ(青少年活動支援機能)

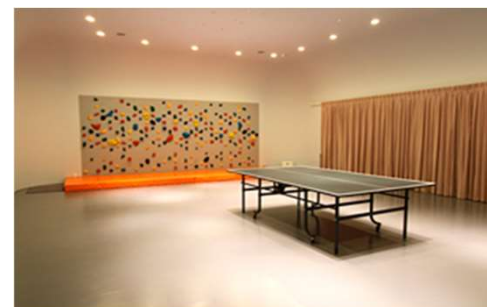
① スタジオラウンジ

気軽に様々なすごし方ができる終日
青少年専用のスペース



② オープンスタジオ

卓球・ボルダリング・軽運動ができる
オープンスペース



③ サウンドスタジオ(有料)

音楽練習のできる防音室

※サウンドスタジオ利用者講習会の受講が必要



ティーンズスタジオ(青少年活動支援機能)

④パフォーマンススタジオ(有料)

ダンス，演劇等の練習ができる部屋



⑤クラフトスタジオ(有料)

美術や工芸，お菓子作り等のものづくりができる部屋



⑥アート&ティーンズライブラリー

青少年向け図書・雑誌と，芸術系の図書合わせて約1万8000冊を配置



ティーンズスタジオ(青少年活動支援機能)

1 利用時間

22時まで(小学生は17時まで)

* 平日の小学生の利用は少ない

2 福祉との連携

平日の午前中の利用など気になる青少年には声がけを行っており、必要に応じて子ども家庭支援センターに情報提供を行っている。

3 安全安心

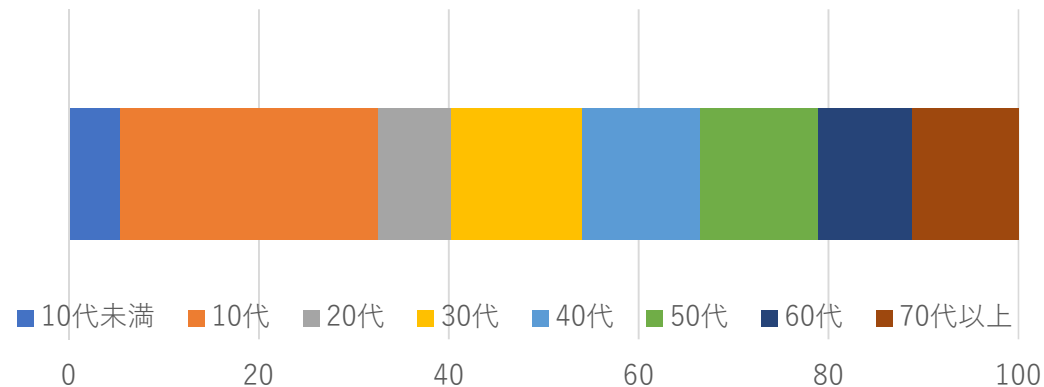
出入り自由としているため入退館システムなどの設備は無いが、防犯カメラの設置により防犯対策を行っている。

クラフトスタジオ, オープンスタジオ, サウンドスタジオは14時30分までは大人も利用可能。それ以外の時間帯で大人が入った場合はスタッフが声がけを行う。

武蔵野プレイスの特長

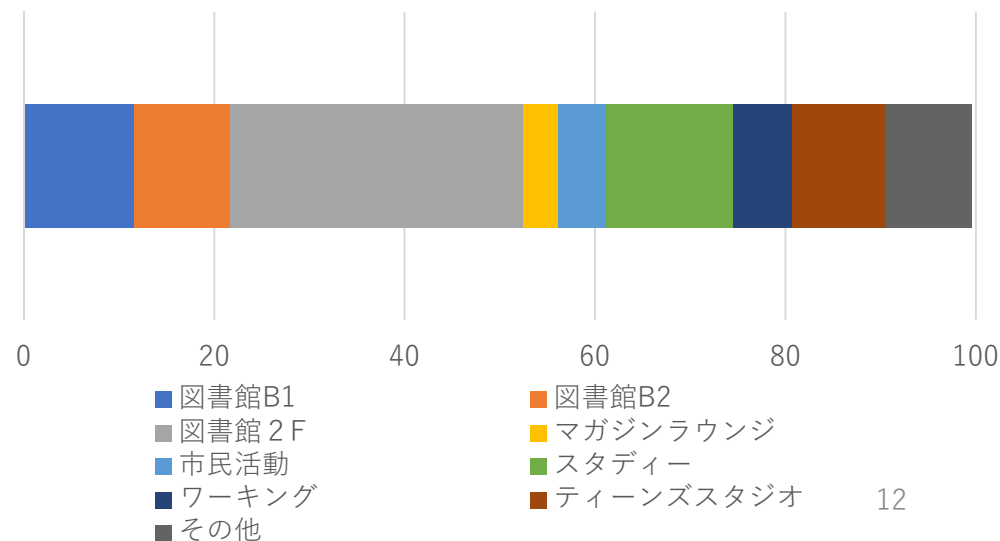
利用年代

- コミュニティセンター等の公共施設では、中高生の利用者が少ないことが多い
- 武蔵野プレイスでは「ティーンズスタジオ」を設置したことにより、10歳代の利用が多い
- 利用者の年代のバランスが良い（偏りが少ない）ことが特長となっている



利用場所

- 図書館部分の利用率は全体の50%
(本を目的としない利用が半分を占める)
- 多様な目的を持った来館者を受け入れている



※右の図は令和4年度のモニタリング評価結果
(来館者200名に対して実施)

公共図書館デザインの新しい時代を作った施設

1. 利便性の高い場所に、複数の機能を集約することにより、多くの人を集めている
2. 幅広い年代がバランス良く利用している
3. 図書館を目的としない来館者が半数となっている
4. 目的を持たずに来館しても心地よく過ごすことのできる場を提供している
5. 多様な来館者が「交わる」デザインを実現している

貸出型図書館（1960年代～）・滞在型図書館（1980年代～）から進化して、

現在の「交流」や「賑わい」を目的とした**多機能融合型図書館**の先駆けとなる施設